

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。NITS 大賞に応募する場合、ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. D-23

研修成果の活用レポート ※「NITS 大賞」にエントリーされる場合は <award@ml.nits.go.jp> 宛てメールにて、ご応募ください。

所属名・氏名・修了した研修名 兵庫県たつの市立揖西東小学校 酒谷智史 平成30年度第1回次世代リーダー育成研修	応募部門名 校内研修プログラム開発・実践部門
--	----------------------------------

活動名：
自己肯定感を高める授業
子どもも教師も高い意欲をもつ学校

解決すべき課題：
本校は児童のアンケートによれば、自分に対して肯定的に思っている児童が85%程度と高い割合である。しかし、学年が上がるにつれてその割合が低下していく傾向にある。「分からない・できない」を積み重ねる児童が、学級内に一定数居ることが考えられる。教員は、授業の改善に取り組みたいと考えているものの、朝の児童間トラブルの対応や放課後の保護者対応のため、授業の準備は後回しになってしまう悪循環が見られる。

目標・方針：
1、学習意欲を高める要件を明らかにしたうえで、「わかる・できる」授業（授業のユニバーサルデザイン化）を推進することで児童の自己肯定感を高く維持できるのではないかと。
 2、そのためにはまず、教師が自信をもって授業にあたるよう、校内の研修を充実させる。
 3、同時に業務を適正化（スクラップ・スリム化）を推進する。

活動内容：
1、学習意欲を高める要件として、①自己決定感、②有能感、③他者受容感があげられる。①、②については言うまでもない。③については、他者からの応援、好意的な関わりという意味である。具体的にそのような授業のあり方はどのようなものかを、平成30年11月（社会科）と平成31年1月（国語科：写真1）に授業公開を行った。
 2、前項の③を実現するには、良好な学級経営が不可欠である。しかし教員免許取得の課程で、「学級経営」はない。ベテランは経験に頼って、若手は行き当たりばったりで学級を運営しているということである。まず、学級経営の理論について職員研修を実施する。また、授業UDの校外研修に参加した先生に「自主研修」という形で、授業公開（写真2）していただき、日常の授業改善の手がかりを提供してもらった。
 3、毎朝職員朝会から週2日（火・木）へ削減する。（写真3）いじめや学級崩壊の発生しやすい6月、11月、2月の学校行事や業務について内容を整理し、職員・児童共に負担感を軽減させる。

活動の成果： ※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、職員や参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

- アンケートにおける自己への肯定的評価をしている児童の割合が1年間で84.7%から88.7%と4%向上した。（図1）自己決定の場面がある授業、「わかる・できる」という有能感を得られる授業、がんばりを応援してもらえる学級を目指した成果と考えられる。
- 手探りで学級経営するのではなく、理論と方法を知った上で実践する。学級の安定は職員のメンタルの安定にもつながり、好循環が生まれた。また、「自主研修」という形で授業公開していただいた先生は、①自己決定感、②有能感、③他者受容感を得られ、教師自身がモチベーションを高く業務にあたることができるようになった。さらに校外研修の成果を校内で広めることで、多くの先生方が「自分もやってみたい」と考えるようになった。このことで、平成29年度と比較して先生方が自主的に校外研修に参加する件数が飛躍的に増えた。（平成29年度平均2.3回から平成30年度平均4.7回）我が国の教員は、校内研修には積極的に参加するものの、校外研修には参加しない傾向にあると指摘されている中で、大きな成果といえる。
- 全職員が職員室に拘束される職員朝会を削減することで、20分程度早く教室に行くことができるようになった。たかが20分であるが「担任が教室にいる」ことで、児童とのコミュニケーションが起これ、精神的に安定した状態で1日をスタートできる。また、登校時に児童間でトラブルが発生していた場合にはその時間のうちに解決へアプローチできる。朝の安定は、当然1日の安定につながる。担任が放課後、保護者対応に追われるようなことが必然的に減る。さらに、学校行事については整理や削減を行った。（例：修学旅行の日程変更、音楽会の土曜開催から平日午前中開催、スキー旅行の廃止、学級じまい・卒業式に向けたムービー作成の廃止など）「何をがんばるか」という視点から、「何をやめるか」という視点に転換し、地域や保護者の理解も得ながら改善した。このことは行事や業務の目的・意味を再確認する機会となった。

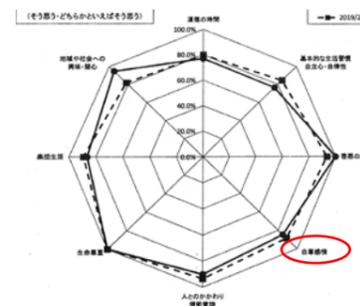


図1

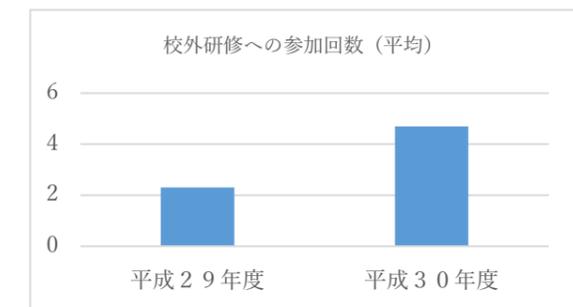


図2

<職員の声>

- ・若い人々にも研修報告、実践報告の形で登壇の機会があれば力量を高めたり、ふり返ったりするチャンスになる。
- ・学校備品を使った研修が参考になった。使い方が分からないままに放置されているが有効な活用法を知ることができた。音楽室の備品の使い方も知りたい。
- ・次の日の実践からいかすことができ、とても役立ちました。
- ・自分が講師をすることが、一番の勉強になります。来年度以降も続けたい。
- ・限られた時間で、各々の知識を聞かせてもらい、取り入れ、実践したいことが増えた。まだまだ披露していない人がいると思うので、どんどん聞いて欲しい。
- ・他の先生の実践を教えていただける機会がなかなかないので役に立ちました。

アピールポイント（アイデアや工夫）： ※3~5つ程度、箇条書きしてください

- ・自己肯定感の向上
- ・授業のユニバーサルデザイン
- ・校内研修の充実と校外研修への参加促進
- ・業務の適正化、負担感の軽減。



写真1



写真2

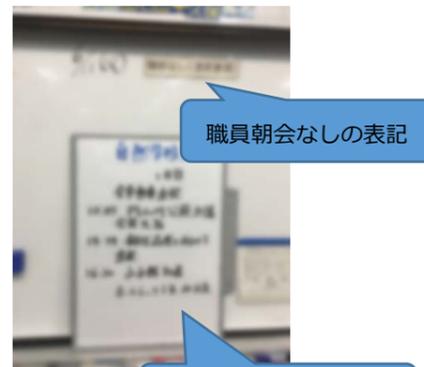


写真3

行事に関する連絡事項